



かどわきっ子

メモリアルデー

先週12日(金)は、メモリアルデーを開催したところ、来賓の皆様をはじめ、多くの方に御参観いただきました。誠にありがとうございました。

今年、仮設校舎時代に大野木場小学校にお勤めされていた「松崎和之」先生に御高話いただきました。当時の様子や子どもたちの姿から、命の大切さや支えてくださった方への感謝だけでなく、ふるさと大野木場を大事にしていることや自然とともに生きて行くことの大切さを学びました。




会に先立ち、私の挨拶では、噴火災害当初から18年もの長きにわたって交流をしていた岩手県の上折壁小学校のことを紹介しました。記録を見ると、直接大野木場小学校においでいただいた御家族もあったようです。残念ながら、上折壁小学校が閉校することになり、この交流は平成20年度に終わりました。

支援を思い立ってくださったことにも感謝ですが、それを上折壁小学校の伝統のように続けていただいたこと、そして、その思いを汲み、こちらからもお返しをと応え続けた大野木場小学校の子どもたちや当時の先生方の思いにも感謝の念が尽きません。

当時のことや思いを今の子どもたちに伝えることができるのは、間違いなく、御家族のみなさんです。

挨拶の中では、子どもたちに次のようなことも伝えました。

大野木場で生まれ育ったみなさん、自然災害について、人を思いやるということについて、考えて、考えて、考えてほしいと思います。そうすれば、自分に何ができるか、自分は何をしたいのかが少しずつ見えてくるかもしれません。

今度は、皆さんが全ての人を大切に思っ
て行動に移す番です。毎年行うメモリアルデー
を通して、災害・防災学習を通して、皆さん
の心が成長していくことを先生は期待して
います。

子どもたちが何かを感じ、考え、言葉にし、行動へと昇華させる。その成長のタネは、毎日の生活の中にあるのかもしれませんが。一人一人の成長のタネをしっかりと見つけ、のびのびと成長できるようにすることこそが、私たち大人に課せられた役目です。子どもたちの背中を、そっと押してあげられるような、プラスの声掛けをともに心がけていきましょう。

ちょっとブレイク

先日、ある校長先生との会話で、「小学生のヘアカラー」が話題になりました。結論を言うと、小学校には校則はないので保護者の判断となります。その判断材料は？

染料の外箱には、「幼小児が届かないところに保管」と書いてあったり、「16歳未満には使用不可」としていたりします。これは、【アレルギー対策】ということでしょう。小学生の皮膚は大人よりも薄く、未発達であるため、ヘアカラーに含まれる化学物質の影響を受けやすく、アレルギー反応を起こしやすいそうです。一度でもかぶれを起こすと、その後は大人になっても使うことができないそうです。

もう一つは、「ルールを逸脱しているように見られやすいことから生じる危険性」です。大切なわが子を世間の悪い大人から守らなければなりません。ルールを逸脱する悪い大人は、悪い顔では近付いてきません。いい人のふりをして、言葉巧みに近付いてきます。【隙を見せない】ことも、判断材料の一つでしょう。

「大袈裟すぎる」という御意見もあって然りです。それも保護者の判断です。ただ、「我が家の基準」は守れる子どもに育てたいですね。